ぐろっけ
平成六年七月二十七日第三種郵便物認可
平成十九年六月一日発行（毎月一回一日発行）
第十四巻第二号（通巻第一五八号）

鈴ぐろっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第158号
6. 2007

烏麦

品川鈴子

青しぐれ神仏在(ま)さぬ福址村

走り梅雨翔けざる鳩は青銅か

ガレージに吊り玉葱の網袋

日曜をゴム長靴で溝浚へ

PDF= 俳誌の salon

一会にて詩仲間となる黒日傘

青苔を鎧ふ水車は古武士めき

緑蔭で配れば飴も詩のかけら

鳥麦名も知られずに土手固め

城生まれ敏き瞳の青葉木菟

芦屋・精道小学校

めまとひが迎ふ亡夫の小学校

PDF= 俳誌の salon

玉鈴吟

大阪　尼嵜太一郎

春炬燵ルーペ上下に株価欄
桐炭の熾る匂ひや母の里
干し手袋天に向かひて合掌す
桐火鉢手の甲の皺そつと撫づ
松伐つて日影隈なき障子なる

兵庫　荒木　治代

どの茶屋も準備中てふ梅の里
土間余寒酒気の漂ふ蔵屋敷
農小屋の裸電球冴返る
春一番声のちぎれる巡回車
はかどらぬ花鳥の刺繍山笑ふ

大阪　池田　かよ

黄砂降るシルクロードの風便り
裏庭と云へど原なす水仙花
湯げむりの宿へ誘ふ芽木あかり
砂時計天地返して春鬱と
納骨に神の使ひのごとく蝶

大阪　石橋　萬里

告白の機会なきまま卒業す
好きな子の側に寄せ書き卒業す
彫り薄る俳諧の鐘涅槃西風
金縷梅にジャズ弾き語る縮れ髪（アフロヘア）
参道の風まだ荒し牡丹の芽

東京　市橋　章子

利休忌の千家辺りの華やげる
姑の納骨修す竹の秋
身の奥の旅の疲れや蜆汁
後ろ手にポルカで踏みし麦の青
古雛の御髪の撥ねのやはらかき

愛媛　今井　忍

小雪舞ふ吊橋帰山の僧ひとり
水洟を拭きて板書の老講師
車椅子燻ぶる火事場一夜明け
水仙の仏間に写経墨をする
日脚伸ぶパンダの檻に児の一団

PDF= 俳誌の salon

香川　齋部　千里

鴨翔つや大師池より動く春
穴を出し蛇少年に打たれたり
春一番松ボックリが地を走る
何事も丸くおさめて木瓜の花
空の青嶺に谺す初音かな

兵庫　浮田　胤子

美女乗せてヒヤシンスのみの山事通る（オランダ二句）
花の山車よき香をのこし花祭
ひいやりと頬にふれたる垂れ梅
父の忌は三月吾は一年生
卒園す上から下までピンクの児

兵庫　馬越　幸子

桜貝小指の爪に載せてみる
雀にも少し撒きたり雛あられ
病床にぽろりと零す雛の寿し
西へ発つ人へ男雛のストラップ
柩また一つ呑み込み山笑ふ

大阪　大井　邦子

おかっぱの旅立つ駅は花の冷え
日と鼻は雨に休息花粉症
松の花庵の標烏帽子石
太閤の数寄屋も荒れて花の雨
花の冷え鶯張りを爪先に

東京　大川冨美子

春一番身を小さめに足構へ
笹鳴きや伏せて陰乾し露地草履
今もつて少女心で雛飾る
啓蟄や池に水輪の生まれつぎ
陽炎が揺らぐ町並人の波

兵庫　岡　有志

特養の母も唇にす雛あられ
満載の雛舟波に雛こぼし
荒くれも試合着洗ひ卒業す
寒餅のおのが好みの色炙る
余寒まだ去らず孤独の医師われ

埼玉　岡田章子

浦狭むる養殖筏風光る
春の鴨利根の早瀬を流さるる
うぐひすに急ぎ眼鏡を探しけり
灯を消すや春立待の月明り
春の靄汽笛の続く備讃瀬戸

愛媛　岡野　峯代

うざうざと動く一木松毟鳥（いちぼくまつむしり）
調弦の紛（まご）う一瞬鶯に
「春雷」と声揃ひたり二度までも
不聞顔（きかずがお）おしおきされて泣く日永
透垣に成してうららに広ごりぬ

PDF= 俳誌の salon

薬草歳時記

（一五七）ウキクサ（萍）

市橋章子

母のせて舟萍のなかへ入る　　桂　信子

ゆらゆらと水面に浮いている小さな小さな葉、「萍（うきくさ）」はウキクサ科の多年生の浮遊植物。日本各地はもちろんのこと、世界中ほとんどの温帯、熱帯に分布しています。

植物の本体は水に浮かんだ7ミリ前後の偏平な卵形の葉状体で数個つながって浮いています。

表面は光沢のある緑色、裏は紫がかっています。水中に十数本の根を真直ぐに垂らし、根のつけ根に幼芽ができ、次々に新しい葉状体を作り、水面を覆いつくす勢いで繁茂していきます。

花期は五～八月。花弁のない雄しべと雌しべからなる白い花序をつけますが、目立たず人目につきにくいものです。

晩秋、葉状体は枯れ、越冬芽を水底に沈め、暖かくなると水面に浮かび上がり、また新しい葉状体をつくります。

人造湖や水溜りにもウキクサが見られるのは、羽があるわけではなく、小さくて軽いので水鳥の足などについて空中を移動するからです。

とても小さいウキクサですが薬用になります。網ですくって乾燥させたものを、利尿、発汗、解熱用に4～8gを煎じて服用します。

中国最古の本草書『神農本草経（しんのうほんぞうきょう）』に「水萍」の名で記載があり、一九七七年版『中華人民共和国約典』には、皮膚のかゆみ、むくみ、尋麻疹に煎じて服用、または煎汁で患部を洗うことが記載されています。

鮮やかな緑が水面をおおっている様は涼しげで美しいもので、「うき」を「憂き」に掛けたり、根無し草の定めから、不安定なもの、恋、人生の無常などを託したり、水の流れや風に変わる萍の様子など、古来より詩歌にも多く詠まれています。

別名は、浮草（うきくさ）、根無草（ねなしぐさ）、無者草（なきものぐさ）、鏡草（かがみぐさ）など。

参考文献

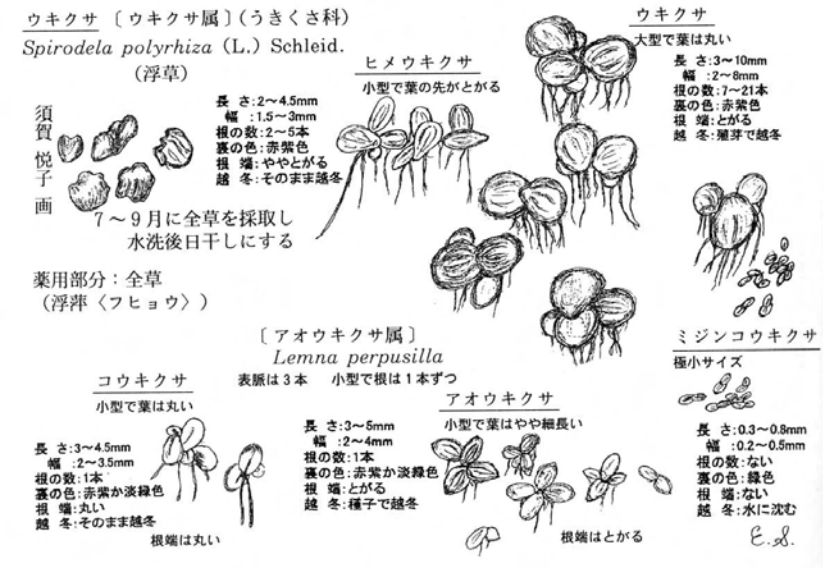
「牧野和漢薬大図鑑」関田稔監修北隆館

「薬草カラー大事典」伊澤一男　　主婦の友社

「日本水草図鑑」角野康郎　　文一総合出版

著者略歴　神戸薬科大学卒

PDF= 俳誌の salon



浮草や蜘蛛渡りゐて水平ら　村上　鬼城

いづこよりわく水やらむ萍に　久保田万太郎

萍のわが屍を蔽ふべく　三橋　鷹女

雨ならず萍をさざめかすもの　富安　風生

萍を咲かせて軽き昼夜かな　橋　閒石

池畔ゆき青萍の香にむせぶ　山口　誓子

第二楽章へ萍のひろがりゆく　能村登四郎

萍のみんなつながるまで待つか　飯島　晴子

萍を掬ひたる穴すぐふさがる　三橋　敏雄

浮草やかがめば近き水の息　北畠　明子

(ぐろつけ)

PDF= 俳誌の salon

鈴の奏

品川鈴子選

冴返るホームを急行電車過ぎ　兵庫　唐鎌光太郎
冴返る後には引けぬ事のあり
春めきて腰に上着を巻きつける
揚雲雀口に蕪村の句をひとつ
万愚節一族揃ひ楽天家　香川　横内かよこ
礎と魁たれと卒業訓
ふらここの空に六時の鐘を聞く
後追ひもされなくなりてしやぼん玉
いくつもの風船残し孫等去る　香川　石川　裕美
春泥を付けし子の靴我を踏む
長閑けしや変わりばえせぬ口喧嘩
コトコトと煮込む牛筋春浅し
腰痛も怠けも少し春炬燵　兵庫　後藤　洋子
欲しがらぬ母に荷造り白子干
春の昼パン屋へ入る迷い鳥
飯蛸に金色の紋しっかりと
干し大根音符のやうに揺れてゐる　鹿児島　尾崎　久子

春雷が質屋の角を曲りけり
村ひとつ目覚める頃や花こぶし
水ぬるむ第一釦はずしけり
色足袋の阿閣梨に健歩あやからむ　大阪　武藤　士侑
水涸れを示す橋脚水位計
交はつてゐて交はらず鉄路冷ゆ
春炬燵同じ銘酒を飽かず飲む
毛虫出づ去年と同じ威し紋　兵庫　太田　実
十薬の群れて徒町静かなり
夏風邪の妻に「百萬」聞かせけり
大涸の如き駅舎のみどり風
啓蟄に乳の香残る孫を抱く　大阪　弓場　赤松
ゆつたりと谷に谺す彼岸鐘
連如忌の吉崎に立つ陽は麗ら
マネキンの春服目立つ問屋筋
老犬の声嗄(か)れ治す卵酒　兵庫　水野　弘
卒業式盲導犬も敬礼す

PDF= 俳誌の salon

秀鈴記

巻頭　三句　品川鈴子評
四句～十五句　川合まさお〃
＊選句は全て　品川鈴子

揚雲雀口に蕪村の句をひとつ　　唐鎌光太郎

雲雀の声を聞きながら、長閑に歩くと、おもわず蕪村の一句が口をついて出る。江戸中期の俳人、与謝蕪村（一七一六～一七八三）は摂津の国東成郡毛馬村の谷口家に生まれ、長じて江戸にも居たが、丹後地方の与謝村と京を住み次ぎ、俳諧ばかりか、独特の画風で文人画の逸品が多い。簡潔で洒脱、そして感性的浪漫派です。この機会に蕪村の句にも触れてみて下さい。

後追ひもされなくなりてしやぼん玉　　横内かよこ

子育てに夢中だった頃、寸暇を惜しむ母の外出には、目ざとく後を追う児が付きまとい、後ろ髪を引かれるばかりだった。ところが健やかに成長した子達は、何時しか母への関心など示さない。やっと優雅な時期を得たと言うのに、少し虚しくて複雑な女親。

長閑けしや変わりばえせぬ口喧嘩　　石川　裕美

主婦盛りともなれば、家族の要だから誰彼に気を配る。その挙句言わずもがなの小言が出るので、煙たがられて又も口げんか。いつものような売り言葉に買い言葉も遠慮ない家族の遣り取りが、おもえば長閑なものである。独り暮らしには羨望のたぐい。

腰痛も怠けも少し春炬燵　　後藤　洋子

春炬燵という季語が此の句にぴったりであると共に私の好きな季語でもある。あまり動きたくないのか炬燵を出ようとせず、家族と話し合っている様子が想像出来る句。

春雷が質屋の角を曲りけり　　尾崎　久子

娘が小さい頃「雷が来るから早く寝よう」と言うと「何

PDF= 俳誌の salon

処に来ているの見に行こう」と言われたものでした。
あっ！質屋の角まで来ているよと言える句だと思いました。
雷と質屋の遠近取り合わせがお上手だと思いました。

水涸れを示す橋脚水位計　　武藤　士侑

橋脚に残る増水の時の水跡を水位計とみた作者のお手柄の句と思います。句種は何処にでもあるものですね。住吉川を六月に歩きますので注意したいものです。

毛虫出づ去年と同じ威し紋　　太田　実

私も真似たい様な作句手順だと思いました。繰り返し詠む程私は感心させられました。先ず毛虫出づでちょっと切り、去年と同じ威し紋と決めた所が大好きである。
同じ植物が有れば来年も威し紋を着けた毛虫が出てくるかもと思いました。

ゆつたりと谷に谺す彼岸鐘　　弓場　赤松

此の句は寺から離れた所で彼岸法要の鐘を聞いて居るのだと想像します。
畑作業をしながらゆったりとした鐘の音を聞き「あ今日は中日か」と呟いている昼前の静けさが伝わってくる句だと思いました。

卒業式盲導犬も敬礼す　　水野　弘

盲導犬の道案内で晩学に励まれたと拝察させて頂きますが、卒業おめでとう御座います。そして盲導犬様ご苦労様でした。出来ればクラス会にも盲導犬同伴で出席され皆様と話合って下さいと願わずに居られない句。

江戸川区へようこそとあり春川辺　　遠藤とも子

近頃の行政は看板にも気を使って「ようこそ」とか「気をつけてお帰り」等の工夫を凝らした看板が目に付く。こ

PDF= 俳誌の salon

の看板を句にされたのが良かったと思います。堤に足を伸ばして座っている作者、ゆっくりと流れていく川まで浮かんでくる。

薄紅梅境内にある力石　　高木　篤子

氏神様の境内に卵形の力石が転がっていた事を覚えている。若者が十貫目（三七・五瓩）の力石を揚げたとか競い合ったものであるが、残っている神社、力石とも少なくなった。

PDF= 俳誌の salon